

「出前授業 part2～職場体験を通じて～」を開催

〈中国四国農政局四国東部農地防災事務所〉

四国東部農地防災事務所では、地域の農業及び国営吉野川下流域土地改良事業が果たす役割について理解を深めてもらうため、平成25年11月7日（木）に今年度2回目の出前授業を行いました。今回は柿原取水口沈砂池その3工事の受注者である佐々木建設（株）に職場体験に来た吉野中学校の2年生3名を対象に、受注者と協力しながら行いました。

出前授業では、はじめに、地域の農業・現状について説明しました。徳島県産の農作物が全国へ出荷されていることや、大阪市場で主要な地位を占めていることなどを知り、納得している様子でした。3名中2名が家族等で農業をしているため、農業を体験したことがあり、地域の農業について知っているようで、徳島県内でれんこんやかんしょ等が多く作られていることを理解しているように見えました。

次に、事業の目的・効果について説明しました。農業には多くの水が必要であること、その水は川の水やポンプでくみ上げた地下水を使っていること、その水を農地に届ける水路には、老朽化や家庭からの排水流入による水質悪化といった問題があることを説明し、これらを解決するため、国営事業で新しく農業用水路を造っていることについて紹介しました。事業によって、吉野川のきれいな水で農業を行うことができ、収量増加や品質向上が見込まれることを説明すると、少し驚いた表情をしていました。また、生徒たちは農林水産省という組織は聞いたことがあるようでしたが、農林水産省のイメージについて問うと、「農業について活動している」や「農業について研究している」等漠然とした回答が多かったです。

その他にも、農家のための施設を公共事業で作ることをどう思うかという問いに対しては、「すばらしい」や「がんばって」等、公共事業に前向きな意見が多かったです。

短時間ではありましたが、なぜ農業用水路をつくっているか理解できた等の意見から、生徒たちの理解を深めたことがうかがえ、施工業者（佐々木建設（株））の協力のもと、無事に出前授業を終了することができました。また、地域学習の機会を提供するとともに、当事業についても理解を深めてもらうことができました。今後も引き続き、このような機会を設け、地域の将来を担う子供たちの学習の一助となり、地域の農業について関心を持ち、理解を深めて頂けるよう、広報活動・地域貢献活動を実施していきたいと考えています。



授業状況